

症状および兆候

文献

藤井皆子, 山岡晶子, 小林聖子, ほか. 外来点滴針穿刺における患者のストレス度の検討ならびにその対策. 臨床看護. 2013; 39(13): 1938-1940. 医中誌 web ID 2014039736

1. 目的

血液透析時の針穿刺のストレス度に対するマッサージ効果の検討

2. 研究デザイン

2群同時並行 RCT

3. セッティング

福德永会さいきじんクリニック

4. 参加者

外来通院患者、166名(平均年齢 不詳)

5. 介入

Arm 1: マッサージ(M)群 83名(男:女=32:51 平均年齢 不詳)

Arm 2: コントロール(C)群 83名(男:女=33:50 平均年齢 不詳)

6. 主なアウトカム評価項目

VAS(穿刺時疼痛評価(聞き取り)), ストレス度チェック(ニプロ社製 COCORO NETER)

7. 主な結果

1) 針穿刺時疼痛の VASscore は、M 群で有意($p < 0.01$)に低かった。

2) 点滴穿刺前後のストレス度は、M 群で有意($p < 0.05$)に減少、C 群で有意($p < 0.05$)に増加した。

8. 結論

血液透析穿刺時の疼痛およびストレス度は、マッサージ群で減少した。

9. 論文中の安全性評価

記載なし。

10. Abstractor のコメント

本論文は、医療行為としての点滴時の針穿刺によるストレス度について検討したものであり、その行為は受ける側も、施行する側もストレスとなっていることは周知の事実である。その穿刺時の疼痛緩和がマッサージにより有効となれば、受領者及び医療スタッフともに大きな貢献となる。その意味において本研究は重要である。研究の対象としたサンプル数は多く、よりその研究のデータ集計において安定的かつクリアな結果となっている。しかし対象患者2群のランダム化として割り付けられた方法の記載がなかったこと、また、VASを聞き取りで判定したことは、その過程にバイアスが入り込みやすい状況となっていることは否めない。受領者だけでなく、点滴穿刺する医療スタッフのストレス度の評価もあるとさらなる研究デザインの充実となる。

11. Abstractor and date

緒方昭広 2015.3.25